

風土記の丘の花だより²³¹

今、そしてこれから見られる植物(2024年4月13日)

やっと咲いたソメイヨシノは、先日、季節外れの大雨に打たれてほとんど散り果てました。駐車場からの進入路にはカンザンが大きな花を咲かせています。そして多くの人が楽しみにしていた緑のサクラ「ギョイコウ」も咲きました。今年は寒くなったり暖くなったりしましたが、何とか一通りのサクラが咲いてくれました。



これは谷村家住宅の東側に咲いたカスミザクラです。薄緑色の新葉と、真っ白な花が重なって、名前のように霞んで見えます。山に咲くサクラはこれで最後ですね。カスミザクラの「かすみ」は、花に多くの毛が生えているからと言われていますが、毛と言っても細かい毛ですから、そのために霞んで見えるというのも少し大げさかなと思います。上に書いた理由の方がそれらしく思いませんか？ヤマザクラの新葉は少し紫がっていますが、カスミザクラは本当にさわやかな緑色です。



いろいろなスミレが咲き始めています。タチツボスミレが一番多くよく目立ちますが、こんなスミレもあります。左の堇色の方がヒメスミレです。日当たりがよく、踏み固められたような所に生える小さなスミレです。右の白い方がアリアケスミレです。これは、古代米を植える田んぼの周りで撮りましたが、修復古墳などでも見られます。白いのでわかりやすいですね。

今年も咲いてくれました。ハランの花です。これは



柳川家の庭で撮りましたが、ハランの生えている所なら、だいたい見つけることができるでしょう。ただ、見つけるのは大変ですよ。根元をかき分け、枯れ葉、落ち葉を取り除き、かなりの作業です。でも見つけた時は嬉しいものです。ところで、柳川家のハランの名札には、「ばれん」と書かれています。昔からこの大きな葉は、何かと生活に役立ち、多くの方は親しみを込めて今でも「ばれん」と呼んでいます。

アップに撮ったので何の花かわかりにくいですね。サルトリイバラです。左が雌株に咲く雌花で、中にプクッとめしべが見えます。右側が雄株に咲く雄花で、中におしべが見えます。この葉は艶があり円く、手のひらほどの大きさなので、私が子どもの頃は「かしわもち」を包むのに使いました。よく採りに行きましたが、茎にたくさんの刺があるのでイヤでした。季節になると、花屋さんでも売っていたように思います。何十年前のことでしょう。昭和は遠くなりにはけり・・・ 松下

